

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：12501
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2023
 課題番号：18K09966
 研究課題名(和文) 学生の専門職間連携能力の発展を促進するIPEプログラムの実装に有用な学習理論開発

研究課題名(英文) Development of learning theories useful for implementing IPE programs that promote the development of students' interprofessional collaborative competencies

研究代表者
 井出 成美 (Ide, Narumi)
 千葉大学・大学院看護学研究院・准教授

研究者番号：80241975
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：まず、既存のInterprofessional socialization(以下IPS) Frameworkの検証研究を行った。Khaliliらの開発したこの枠組みに沿い、本学のIPEプログラムの受講学生のレポートを追跡分析し理論の検証を質的に行った。次に、Kingらの開発したIPSを測定する尺度であるInterprofessional socialization and Valuing Scale (ISVS)の日本語版翻訳を行った。また、本学の国際的学際的IPEGRIPを受講した日本・インド・イギリスの学生を対象に原版のISVSを使用し成果評価を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Interprofessiona Education：IPEのデザインと実施のための適切なガイダンスとなる理論は乏しい状態であるが、カナダで開発されたInterprofessional socialization framework:IPSFという枠組みが、IPEの意義の説明や成果評価に有用な理論であることが分かった。今後、我が国に実装が一層進むであろうIPEのプログラムデザインに有用なガイダンスとなる学習理論であることを検証できた。

研究成果の概要(英文)：First, we conducted a validation study of the existing Interprofessional Socialization (IPS) Framework developed by Khalili et al. Next, we translated the Japanese version of the Interprofessional Socialization and Valuing Scale (ISVS), a scale to measure IPS developed by King et al. The original version of the ISVS was also used to evaluate the outcomes of Japanese, Indian, and British students who participated in Chiba University's international interdisciplinary IPE program called "GRIP".

研究分野：専門職育成学

キーワード：専門職連携教育 専門職連携実践能力 学習理論 専門職の社会化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

IPE は、イギリスで発生し、「2 つ以上の専門職が共に学び、互いについて学び、お互いから学び合いながら、ケアの質を向上させること」と定義され (The Centre for the Advancement of Interprofessional Education 2002) ている¹⁾。英国から欧州各国、北米へと広がり、現在では世界各国でその価値が認められてきている。

我が国においても平成 13 年ごろから医療系の専門職を要請する大学関係者の IPE への関心が高まり、平成 17 年度以降、複数の大学が競争的資金を獲得するなどして IPE 導入を実施している。千葉大学は、平成 19 年度に文部科学省現代 GP「自律した医療組織人育成の教育プログラム」に採択され、同年より医学部・看護学部・薬学部の学生を対象にした IPE を開始している。

国内外において医療保健分野の専門職の教育は、Competency-based Education : CBE に移行しており、IPE においても、その教育の結果として学生が獲得すべき Competency の概念化と教育効果測定のための Competency 尺度開発が盛んに行われてきている^{2)~3)}。

このように IPE の「ゴール：目標・成果」としての学生が獲得すべき Competency は明らかになっている一方で、そこに至る「プロセス：方法」である教育プログラムの開発に関しては、実践報告や教育コンテンツへの推奨は存在するが、現状は、IPE 導入大学等が、現実的制約の中での実現可能性を検討し「できることをしている」状況である。

連携に必要な Competency を効果的に獲得できるための学習プログラムに必須の要件や学習コンテンツ・学習方法などの「プロセス」について、そのデザインと実施のための適切な理論的ガイダンスが不足していることが指摘されている²⁾。既存の学習理論や社会理論の研究と、それらの理論を応用した IPE の学習理論開発がいくつかみられる⁴⁾⁵⁾が、実際の学習展開の中での検証は進んでいない。

学生の専門職連携実践能力の発展のプロセスの明確化とそれを促す効果的な教育プログラムの実装に有用な学習理論開発が必要である。

2. 研究の目的

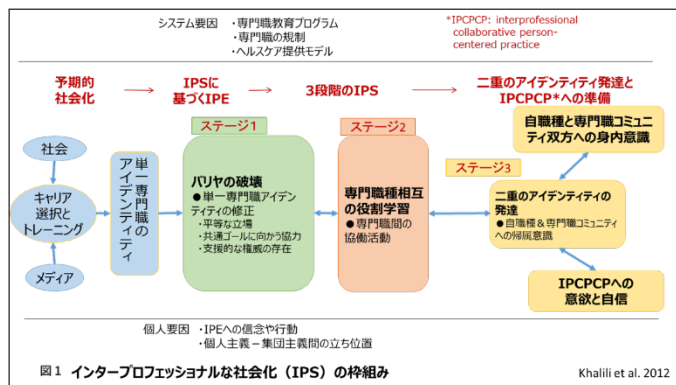
本研究の目的は、IPE 受講学生の専門職連携実践能力の発展を促す効果的なプログラムの実装に有用な学習理論を開発することである。

本研究は大きく 2 つの枠組みで構成する。一つは、既存の学習理論の検証研究すなわち【IPS フレームワークの検証研究】であり、もう一つは新たな学習理論の開発すなわち【専門職間連携実践能力の発展を促す IPE の実装に有用な学習理論の開発】である。

3. 研究の方法

1) 第 1 段階 【既存の理論検証：IPS フレームワークの検証】

Khalili らは、2012 年に IPS 枠組みを開発し(図 1)、IPE において単一職種アイデンティティと IPI



の二重の職業的アイデンティティ獲得を目指したプログラム構築が必要であると述べている⁴⁾。職業的アイデンティティと専門的能力との相関は複数の文献から確認されており、IPS の発展を促すプログラム実装が進むことにより、IPE の目標とされている専門職間連携実践能力獲得の達成に有用であると考える。

まず、段階的教育プログラムを必修として実施している千葉大学の IPE 受講学生の IPS 発展状況をレポートの質的内容分析により行う (研究 1)。次に IPS 発展の最終ステージである IPS の発展を評価するため

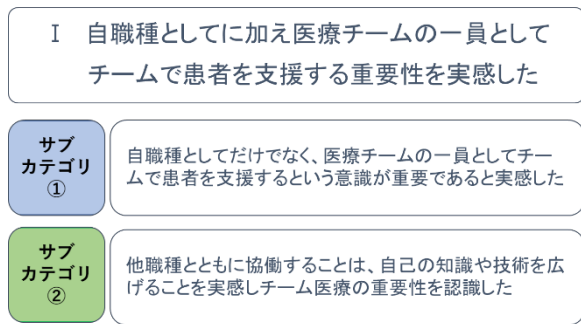
の尺度開発を行う (研究 2)。IPS の発展を測定する尺度を用いて IPE 受講学生の IPS 発展の評価を行い、IPS 枠組みの有用性を検証する (研究 3)。

- (研究 1) 千葉大学の IPE 受講学生の IPS 発展状況をレポートの質的内容分析
- (研究 2) IPS 発展の最終ステージである IPI の発展を評価するための尺度開発
- (研究 3) ISVS 尺度を用いた IPE 受講学生の IPS 発展の評価による IPS 枠組みの有用性の検証

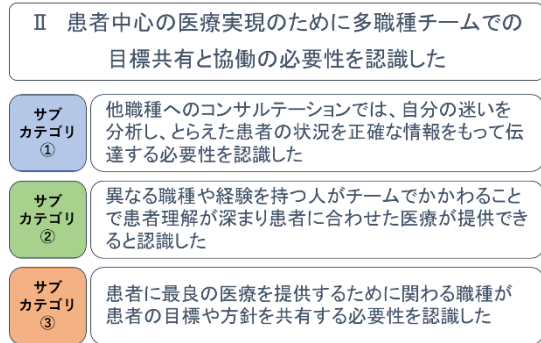
2) 第 2 段階【専門職間連携実践能力の発展を促す IPE の実装に有用な学習理論の開発】

- (研究 4) 多様な形態の IPE プログラム受講学生の IPS 発展の評価と学習体験の関連
- (研究 5) IPS 発展に影響する学習体験の明確化および専門職連携能力の発展を促す IPE の実装に有用な学習理論の開発

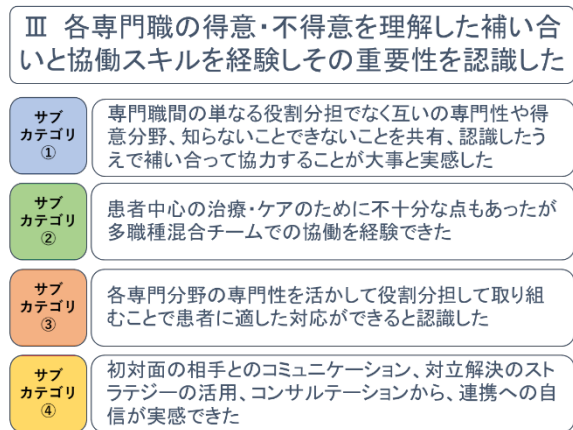
カテゴリーⅠとサブカテゴリー



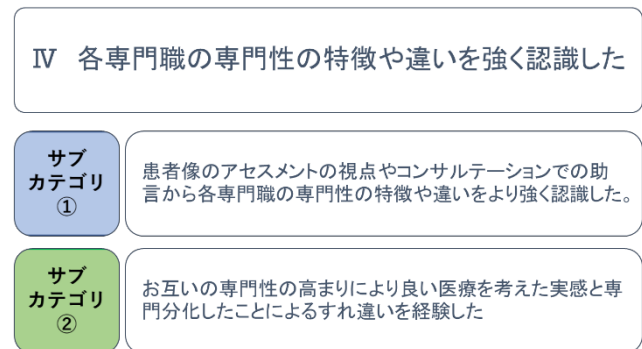
カテゴリーⅡとサブカテゴリー



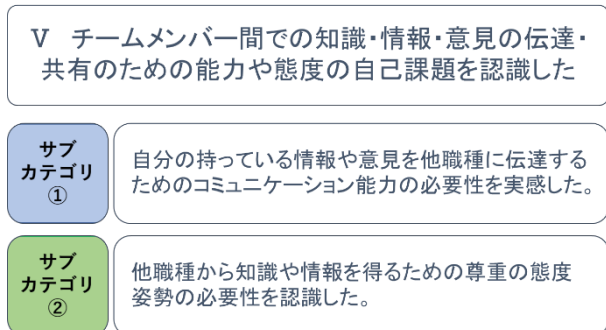
カテゴリーⅢとサブカテゴリー



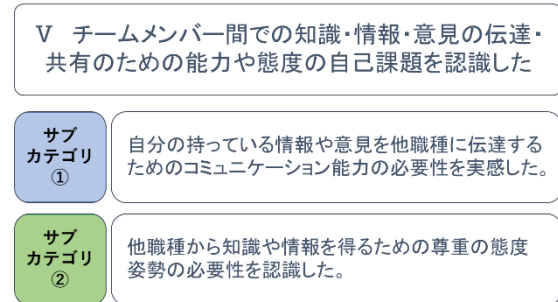
カテゴリーⅣとサブカテゴリー



カテゴリーⅤとサブカテゴリー



カテゴリーⅥとサブカテゴリー



6) 考察

カテゴリーⅠは、医療チームの一員としての自分の存在を認識していることを示すものであった。自分が「自職種として医療に貢献する」ことに加えて「多職種チームとして患者を支援する」存在であるという意識が得られていることが分かった。

またカテゴリーⅡ～Ⅳは、多職種チームのメンバーとしての目標共有や協働、職種の理解の促進を認識したことを示すものであった。各専門職の特徴や違いを認識してい

るが、患者の目標達成に向けた協働段階でのお互いの相違性の認識は、違いがあるからこそ多職種チームで活動することを肯定的な意味としてとらえていると考える。

カテゴリーⅤとⅥは、チーム活動促進のための課題認識をしたことを示すものであった。このうちカテゴリーⅤは、チームに属する自己の課題に注視した内容であったが、カテゴリーⅥは、チーム全体に着目する自己の視点からの課題認識を示したものであった。カテゴリーⅥは、看護学部学生からのみ抽出されたが、これについては、さらに分析数を増やすとともに、その影響要因についても分析を要すると考える。

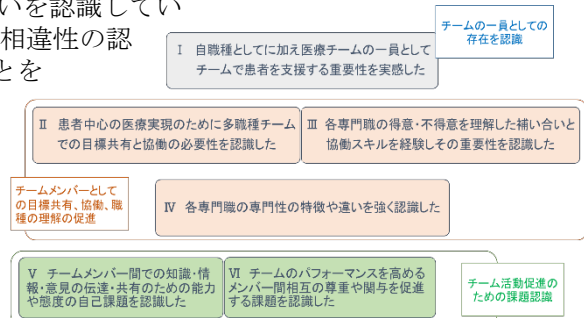


図2 抽出されたカテゴリーの構造

(研究2) IPS 発展の最終ステージである IPI の発展を評価するための尺度開発 (ISVS : Interprofessional socialization value scale)

King らは、IPE による IPS の発展を評価するために IPS の測定尺度、Interprofessional socialization value scale (以下 ISVS と略す) を開発している⁸⁾。ISVS は3種類あり、ISVS-21 は21項目の7段階リッカート尺度で、回答者の IPS の状態を評価できる。ISVS-9A と ISVS-9B は、各9項目のショートバージョンの等価スケールで、IPE 介入の前後で使用するために開発されたものである。項目が9A と9B では異なるため、回答経験によるバイアスがかかりにくい。いずれの尺度も、基礎教育の学生、実践者を対象とした調査で信頼性と妥当性が検証され IPE の教育評価のために有用であるとされ、英語原版は言うまでもなく、ドイツ語など他言語に翻訳され IPE の効果測定に活用されている。この尺度の日本語版を作成し、日本における IPE の効果評価に用いたいと考えた。尺度翻訳の原則 ISPOR に準拠した10段階のうち①尺度翻訳許諾契約②順翻訳③調整④逆翻訳⑤逆翻訳のレビュー⑥調和の段階まで終了し、日本語版 ISVS-21Ver. 1、ISVS-9A&9Bver. 1 としている。今後認知ディブリーフィングの過程を経て、信頼性妥当性の検証を行う予定である。

(研究3) ISVS 尺度を用いた IPE 受講学生の IPS 発展の評価による IPS 枠組みの有用性の検証

ISVS 尺度の日本語版の信頼性妥当性の検証が未完であったため、原版である ISVS-21 を用いて、本学の GRIP : Global & Regional Interprofessional Education Plus Program の担当者天井響子特任准教授らと連携し、本プログラムの効果評価にこの ISVS-21 を用いた。

本研究については、All Together Better Health Conference 2023 にて、ポスター発表している⁹⁾。GRIP の概要 : 千葉大学が世界展開力強化事業として実施している事業で、医療以外の分野に限定しない革新的な IPE プログラムとして開発・実施しているものである。インド、イギリス、オーストラリアの3大学と連携し、医療に限らない多様な分野の学生が学際的・国際的なチームを組んで、様々な社会問題について学び解決に取り組む IPE プログラムである。

研究3では、2022年度に実施した第1回トライアルプログラムに参加した、インドの SYMBIOSIS 大学 (SIU) の学生10名と千葉大学 (CU) の参加学生7名のプログラムの事前事後調査による効果評価である。SIU の学生はすべて看護学の学生であった。CU の学生は、医学部、看護学部、薬学部、国際教養学部、看護学研究科の学生が混成していた。結果としては、CU の学生の ISVS 得点は事後で有意に上昇した。しかし SIU の学生の ISVS 得点は有意な変化は見られなかった。これは SIU の学生が10名すべて看護学生であり、多様性が乏しかったため、IPS の発展にプログラムがあまり寄与しなかったことも一因と考えられる。逆に言えば、ISVS が、IPS の発展を感受性良く測定できる尺度であるとも考えられ、今後の研究を重ねる必要はあるが、IPE プログラムの効果測定用具として、IPS 発展を測定する ISVS の有用性が示唆された。

文献

- 1) CAIPE. (1997). Interprofessional education: WHAT, HOW & WHEN?, CAIPE BULLETIN.No13.p19.
- 2) IPEC Expert Panel. (2011). Core competencies for interprofessional collaborative practice: Report of an expert panel. Washington, DC: IPEC.
- 3) Ikuko Sakai, Takeshi Yamamoto et al (2016), Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29). Journal of Interprofessional Care, <http://www.tandfonline.com/action/showCitFormats?doi=10.1080/13561820.2016.1233943>
- 4) Hossein Khalili et al (2013), An interprofessional socialization framework for developing an interprofessional identity among health professions students. Journal of Interprofessional Care. 27(6): 448-53.
- 5) Sargeant, J. (2009). Theories to aid understanding and implementation of interprofessional education. Journal of Continuing Education in the Health Professions, 29, 178-184.
- 6) 井出成美, 高橋在也ほか (2017). 学生の IPS の発展から見た IPE 初期プログラムの評価-亥鼻 IPE・Step1 における最終レポート分析より-. 第10回日本保健医療福祉連携教育学会抄録集, 60. 2017
- 7) 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2023.3.19). IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ. 第15回文化看護学会学術集会抄録集, p32, 2023.
- 8) Gilian King, et al. (2016). Refinement of the Interprofessional Socialization and Valuing Scale (ISVS-21) and Development of 9-Item Equivalent Versions, Journal of Continuing Education in the Health Professions, 36(3), 171-177.
- 9) Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., ..., Sakai, I. (2023, November 6-8). GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health, Doha, Qatar.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 井出成美 臼井いづみ 孫佳茹 酒井郁子
2. 発表標題 IPE最終段階プログラム終了後のInterprofessional アイデンティティ
3. 学会等名 文化看護学会第15回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井出成美
2. 発表標題 文化的視点から見た専門職連携－他職種を理解することとは－
3. 学会等名 第13回文化看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Amai, Akiko Nosaki, Sonopant G Joshi, Shital Pimpalekar, Narumi Ide et al
2. 発表標題 GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program
3. 学会等名 All Together Better Health ATBH XI The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 224
3. 書名 これからのIPE（専門職連携教育）ガイドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	酒井 郁子 (Ikuko Sakai) (10197767)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	
研究分担者	高橋 在也 (Zaiya Takahashi) (30758131)	千葉大学・医学部・特任講師 (12501)	所属の異動に伴い研究分担者から削除
研究分担者	臼井 いづみ (Izumi Usui) (80595984)	千葉大学・医学部附属病院・特任講師 (12501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	孫 佳茹 (Sun Jiaru)		
研究協力者	下井 俊典 (Shimoi Toshinori)		
研究協力者	山本 武志 (Yamamoto Takeshi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------